

【目次】 P1・・・新年挨拶 P2・・・3士会合同学術大会 P5・・・秋季都道府県士会協議会報告 P6・・・参加報告
P8・・・各局からのお知らせ、子どものことば相談会 P10・・・福島復興支援

新年の挨拶

一般社団法人 山梨県言語聴覚士会 会長 内山 量史



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。2015 年が皆様にとって素晴らしい 1 年になりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年は当会にとって新たな歴史の幕開けであったと思います。4 月 1 日に念願の法人格を取得し、定期総会、臨時総会、法人設立総会と 3 度の総会を経て、来賓を迎えての立派な祝賀会を開催することが出来ました。一般社団法人への速やかな会員移行、総会や祝賀会への参加など皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

当会の基本となる学術活動、広報活動、職能活動は皆様のご協力により一段と充実した事業が展開されております。また、一般社団法人山梨県理学療法士会、一般社団法人山梨県作業療法士会との 3 士会合同事業も数多く展開されております。

恒例となった 9 月の「いきいき山梨ねりんピック」における広報活動も 3 士会合同で県民リハビリテーションの啓発を行いました。また、他県では例のない「第 1 回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会」(12 月 6 日・7 日)では両日 500 名以上が参加し、山梨県のリハビリテーション従事者の力を肌で感じた 2 日間でした。

地域包括ケアシステムへの対応や介護予防事業、地域ケア会議への参画といったこれからの重要な課題については、3 士会の地域支援事業等推進委員会が協同でリーフレットを作成しました。リーフレットには「介護予防事業を支えます」「地域ケア会議をサポートします」「地域支援に向けた各種講座の講師を派遣します」のタイトルごとに理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がどのような支援が出来るのか分かりやすく記載されております。今後、このリーフレットを活用して市町村等へ我々リハビリテーション専門職が山梨県で暮らす高齢者の達者な暮らしを支援できることをアピールしていきます。

リハビリテーションを取り巻く環境の変化は、「回復期リハにおける成果主義」「365 日リハ」「疾患別リハ」「算定上限日数」といった医療現場だけではなく、「地域包括ケアシステム構築」「介護予防」「活動や参加に向けたリハビリテーション」という大きな宿題となって地域リハや生活期リハの領域に移行しております。このような社会情勢への変化に対応するためにも当会は社会的役割と責任を果たす職能団体として、人材の育成を含めた充実した研修システムの確立、関連他団体との協働が重要となってきます。

当会は今後も言語聴覚士の技能と資質の向上、言語聴覚療法の啓発や普及・発展のために足を止めることなく前進していきます。今後とも県士会活動にご理解をいただき、積極的な参加をお願い申し上げます。

多くの会員の参加が当会を成長させる“原動力”となります。ともに成長していきましょう!!

山梨県リハビリテーション専門職合同学会術大会を終えて

第7回一般社団法人山梨県言語聴覚士会学術大会（内山大会長）が、今年は第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学会術大会（山本大会長）として開催されました。山本大会長はじめ、各職種からコメントをいただきました。

一大会長からのコメント

第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学会術大会 大会長
一般社団法人 山梨県作業療法士会 会長 山本 伸一

平成26年12月6～7日、一般社団法人山梨県作業療法士会・一般社団法人山梨県言語聴覚士会・一般社団法人山梨県理学療法士会のリハビリテーション専門職団体によって、全国初の3士会合同学会術大会が開催された。（参加人数615名。）2年にわたり100名の運営部員には大変なご尽力をいただいた。全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

「わたしたちだから、出来ること」

「未来を創ろう」

学会抄録の大会長挨拶でそう述べさせていただいた。わたしたちは、ここ山梨県でひとつの歴史のページを開いた。作業療法士、言語聴覚士、理学療法士は、「リハビリテーション専門職」。現場では、チームで対象者へ取り組むパートナーである。しかし、これまでは団体同士の目に見えない「壁」があったかもしれない。3士会は、2年前から「合同意見交換会」を開始。3ヶ月に一度、それぞれの立場で情報を提供し、様々な討議を重ねてきた。真っ先の議題は、「3士会で学会をやろうよ」。もちろん、全員が賛成である。実行委員は公募。各部会・部員の心がひとつになり作業を進める。積み重ねた各種会議、ついにこの日を迎えた。それぞれが感無量であったと思う。

プログラムは、専門職の垣根を越えた内容であった。一般演題・教育講座ともに「リハビリテーション」そのもの。やはり3職種の合同は包括的であり、だからこそ各専門性の再考を促し、発展がある。シンポジウムでは、日本理学療法士協会の植松光俊常務理事・日本作業療法士協会の中村春基会長・日本言語聴覚士協会の深浦順一会長による「これからのリハビリテーション」。先生方のマインドを引き継いでいただけたのではないだろうか。

本学会の事務局は当番制である。今回は作業療法士会が担当させていただいたが、次回は言語聴覚士会。宜しく願いいたします。

「また3年後に集いましょう。」

「わたしたちの時代は、わたしたちが創る。」



第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会を終えて

第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会運営委員会事務局広報部部長
石和共立病院 理学療法士 名取 大輔

平成26年12月6日、7日に第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会が開催され、617名の参加者により盛大に執り行われました。

運営委員会は6月より始動しました。何しろ全国初で前例も無いため、皆で一つ一つ手さぐりで進めていくしかない状況でしたが、広田実行委員長の的確な判断と指示により各士会から選出された実行委員と奮闘し、何とか当日を迎えることができました。

当日は晴天にも恵まれ、一般演題、教育講座、シンポジウムも大会名の通り3職種が三位一体となったとても充実した内容となりました。

運営を通し、大会スタッフの連携やフットワークの良さ、勢いと統制力を感じました。それは先輩方の長年に渡るご尽力により3士会の連携が上手くできていたからこそ生み出したものだと思います。また、普段接点の少ない他士会・他施設の方々と関わることができ、顔の見える県士会のつながりができたことは私たちの大きな財産になったと思います。

最後に、開催にあたりご協力いただいた多くの方に感謝を申し上げます。

第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会を終えて

一宮温泉病院 杉山 達也

今回、全国でも初めての試みとなる第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会に抄録編集部、また当日は会場運営部のお手伝いとして関わらせていただきました。抄録編集部として、抄録作成以外にもポスター作成、大会ロゴ作成に関わることができました。

ポスターは、各自がアイデアを持ち寄り、3士会合同であることを重点に作成いたしました。ロゴも富士山、桃、葡萄、武田菱などを参考に多くの意見がありました。採用されたロゴの富士山の雪のラインが少し右上がりになっていることに気づいた方はおられたでしょうか。これからの3士会合同学術大会の発展を祈願し右あがりになっています。ぜひ確認してみてください。

両日とも500人以上の方が来場され、中には一般の方の参加者もおられたそうです。シンポジウム、教育講座、演題発表等が無事に終えられたことも、各職種の垣根を越えて連携がとれたからだと思います。レセプションの最後に広報局の方が作成した大会までの流れ、当日の様子のエンドロールを観覧しましたが感動しました。他病院の他職種の方と関わることができたことは、大変身になる経験でした。

次回は当士会が主催となります。第2回大会も成功を収めるためには、さらなる3士会の連携を深めることが必要ではないかと思います。



第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会での発表を終えて

石和温泉病院 南 曜子

平成26年12月6日～7日に桃源文化会館で開催された第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会において、一般演題の発表を行いました。全国でも初めての3士会合同開催ということで、演題の申し込みを行った6月からの約半年間はプレッシャーとの闘いでした。抄録原稿や発表スライドの作成にあたり、これまでの臨床を振り返る機会となったのはもちろんのこと、学術的にまとめるとはどのようなことなのか、他職種に対してもわかりやすく伝えるためにはどうすればいいのか、日々の臨床とはまた違うことも学ぶ機会となりました。発表時の質疑応答では、実際の在宅生活を想定したアプローチについて異なる視点からのご意見もいただき、入院中に言語聴覚士だから出来ることがまだ沢山あるとあらためて感じました。今後もこのような学びの機会を大切にしながら、日々の臨床の質の向上を目指していききたいと思います。



山梨県リハビリテーション専門職学術大会を終えて

加納岩総合病院 小松 富美子

12月6日～7日に『飛躍～やまなしのこれからのリハビリテーション～』というテーマのもと、全国初の3士会合同学術大会が開催されました。私が参加させていただきました7日は、一般演題、教育講座、シンポジウムが行われました。

シンポジウムでは、日本理学療法士協会の植松理事、日本作業療法士協会の中村会長、日本言語聴覚士協会の深浦会長が『これからのリハビリテーション』というテーマの元、それぞれの立場からお話をいただきました。特に印象深かったのは、『急性期から在宅をイメージし、生活支援を前提としたリハビリを行う。与えられると考えない。失敗して「どうしたらできるのか」を考えることが大切。家に帰ると「与える」リハ職はいない』というお話です。

今回の学会で、他職種の専門性やチームアプローチの大切さを再確認できました。『理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が同じ目標に向かいそれぞれの専門性を発揮することがよりよいチームアプローチへと繋がる。』その言葉を大切に今後の臨床に活かしていきたいと思えます。



平成26年度秋期都道府県県士会協議会報告

湯村温泉病院 副会長 赤池 三紀子

去る11月8日(土)に朝日生命大手町ビルで都道府県県士会協議会が開催されました。内山会長が深浦協会長の隣に副会長として位置し、大役を果たしました。まず、深浦会長から、以下の内容に関して報告・説明がありました。

- ①来春の介護報酬改定に対する要望書を日本理学療法士協会・日本作業療法士協会・日本言語聴覚士協会の3協会合同で厚生労働省に提出
- ②「高齢者の地域におけるリハビリテーションの新たな在り方検討会」(厚生労働省)の中で、生活期リハでは従来の機能訓練中心から“参加”に焦点をあてたりハビリの提供が必要であり、リハビリ専門職の質の保障・担保が求められていることについて
- ③代議員選挙が行われていることについて
- ④訪問リハビリテーション財団の地域ブロック制導入について



続いて、介護保険部と医療保険部から、県士会に対し、県内で行われている言語聴覚士の地域活動に関する情報の提供や医療保険に関するアンケート調査への協力の依頼がありました。また、地域包括ケアシステムの構築や介護予防支援事業への参画では、協会は言語聴覚士が行う介護予防市町村支援事業に関するリーフレットを作成中であり、それらを活用して各市町村へ言語聴覚士の専門性をアピールして欲しいとのことでした。山梨県ではすでに3土会で作成したリーフレットがあることを内山会長が披露しました。代議員選挙との関連では、来年度からは代議員による社員総会での審議に加え、この「都道府県県士会協議会」を「都道府県県士会会長会議」と名称変更し、全国の会長が協会事業に提言・提案を行う場となりました。

最後に各土会から現状の報告がなされました。全国では、県士会への入会や研修会への参加が減少しており、役員の手が足りないなどの課題も多い中、当会の精力的な活動は他県から非常に注目を集めていました。国の施策同様、これからは地方組織が主体性を持ち、協会を支え、互いに成長していくことが必要です。当会や協会の活動が確固たるものとなりますよう、今後ともご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

◆ ◇ ◆ 学会・研修会 参加報告 ◆ ◇ ◆

第 59 回日本音声言語医学会総会・学術講演会参加報告

石和共立病院 鈴木 真衣子

2014 年 10 月 9～10 日に福岡市のアクロス福岡で行われた音声言語医学会に参加させていただきました。プログラムは音声障害、嚥下障害、構音障害が中心でした。

最新医療の自己培養骨髄幹細胞についての研究報告があり、細胞療法では、幹細胞が脳梗塞における機能回復に有効であるとの報告でした。重度失語症者が簡単な日常会話レベルの理解・表出が可能となったり、脊髄損傷者の下肢に随意性が見られるなど、著しい改善をされた患者様の報告に、強く感銘をもちました。医療技術の進歩に驚かされます。

また、特殊な装置を用いた舌運動の評価報告がありました。通常の会話速度では、舌運動を安定させるために、舌側面は口蓋に設置している必要があるとのことでした。普段行っている評価・訓練の新たな視点を持つことができました。

今回学んだ知識を今後の臨床に活かしていくとともに、当院の言語聴覚士と共有していきたいと考えています。

第 1 回地域支援事業等推進委員会合同研修会参加報告

甲府城南病院 河村 有美

平成 26 年 11 月 11 日に山梨県立文学館で開催された第 1 回地域支援事業等推進委員会合同研修会に参加しました。今回の研修会では、2025 年を見据えた地域包括ケアシステムの構築に際し、山梨県長寿社会課の貫井先生よりモデル都市(大月市、南アルプス市)で行われた事例を基に、医療と介護の連携方法の紹介と内山会長より地域支援に向けた 3 土会の今後の取り組みについての説明がありました。

山梨県では現在 3.9 人に 1 人が 65 歳以上であり、今後その割合はますます上昇し、それに伴い認知症患者の数も増加していくことが予想されます。介護予防と地域で高齢者を支えていくという取り組みの中において、県が言語聴覚士に期待する役割はとて大きく、また、その責任の重さも感じました。内山会長のお話の中にもありましたが、いつ地域から声がかかっても言語聴覚士としての役割が果たせるよう、日々の臨床や勉強会等を通して自身の知識や技術を高めておきたいと思いました。

第5回リハビリテーション実務者研修会参加報告

笛吹中央病院 山田 徹

平成26年10月25日～26日に訪問リハビリテーション実務者研修会が開催されました。私は25日の、原診療所在宅サポートセンターの山口勝也先生による「訪問リハにおけるフィジカルアセスメント」、足柄リハビリテーションサービスの露木昭彰先生による「地域包括ケアシステムについて」に参加しました。

山口先生はセラピストとしての強みとして「心身機能面・ADL・QOL等を総合的・客観的に評価ができる」「予後予測を基に生活に即したアプローチができ、自立支援等を図ることができる」等を挙げ、「地域の病院・施設・事業所・行政・各職種と連携ができ利用者に最適な生活が送れるようにコーディネーターの役割を果たすことができる」とお話しされていました。

露木先生の講義でも地域包括ケアシステムの中心的役割として「セラピストの意見を伝えケアマネジャーのサポートをしていくことが大切」であるとお話しされていました。

今回の講義では、患者様を支えていく全体的な社会保障を学ぶ機会となりました。これから医療保険・介護保険の改革が進んでいきますが、社会情勢やニーズに柔軟に対応していくスキルもこれからのセラピストには必要であると感じました。

「第19回 山梨県失語症者のつどい」に参加して

巨摩共立病院 長嶺 里香

山梨県で活動する失語症の友の会4団体が集まって開催する、「山梨県失語症者のつどい」が平成26年11月16日に19回目を開催することができました。私が実行委員としてつどいに参加させていただくようになってからは今年で5回目を迎えました。今年も各友の会の代表者の方と、その団体を支える病院や施設、地域で活動する言語聴覚士によって実行委員会を立ち上げ、11月の開催に向けて月1回実行委員会を開き、企画や運営について計画してきました。私は実行委員会には毎回出席は出来ませんでしたが、予稿集を作成したり、当日の写真撮影や記録集の作成に携わることができました。

今年は、午前の部に「甲州弁ラジオ体操第1」、午後の部に「ニコニコ長生きやまなし体操」、「笑いヨガ」と体を動かすプログラムがあり、参加者全員で体を動かし、たくさん笑い賑やかな会になりました。毎年披露される各友の会の発表もそれぞれの個性が光った内容で、今年も楽しく鑑賞することができました。

来年は、20回目を迎え節目の年になります。年に1回、このつどいで再会することを楽しみにしている会員さん同士の交流もつどいを開催する理由のひとつです。次回も実行委員として参加していきたいです。

各局からのお知らせ

事務局 <局長> 河西 祐子 (春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)

<総務部>

- ・第9回理事会を11月21日、第10回理事会を12月19日、第11回理事会を1月16日に開催しました。
- ・平成26年度代表者会議を1月21日にリバース和戸 第2研修室で開催しました。
- ・平成26年5月～12月の会員動向についてお知らせします。

会員数：138名

新入会員：千葉 徹先生(一宮温泉病院) 退会：渥美 友紀先生(春日居サイバーナイフ・リハビリ病院)

所属変更：藤巻 千春先生(しらゆり訪問看護ステーション) 小関 公一先生(自宅会員)

※名簿掲載事項に変更がありましたら、総務部河西まで郵送またはFAXでご連絡下さい。

届出用紙は県士会ホームページからダウンロードできます。

社会局 <局長> 赤池 三紀子 (湯村温泉病院)

<職能部>

- ・今年度の福島復興支援事業は、10月25日に開催された「福島県失語症者のつどい」に復興支援チーム7名が参加・協力しました。今回のつどいや懇親会の様子、参加者の感想が今号に記載されています。ご覧ください。
- ・第5回山梨県訪問リハビリテーション実務者研修会が10月25～26日、東公民館と大木記念ホールにおいて開催されました。参加者はPT35名、OT26名、ST6名でした。
- ・山梨県病院協会PT・OT・ST部会研修会を11月13日スコレーセンターで開催しました。「呼吸器疾患のリハビリテーション～急性期から在宅まで～」と題して甲府共立病院山田洋二PT、甲府共立診療所の大平純江OTからご講演いただきました。201名参加、STは41名でした。
- ・地域リハビリテーション従事者研修会が12月4日に甲府市健康の杜センター(アネシス)で開催されました。当日参加者約70名、STは1名でした。

<地域連携部>

- ・「第19回山梨県失語症者のつどい」が11月16日甲府市南公民館で開催されました。友の会の参加者が少なくなりましたが、STの支援が大きな力となり、ボランティアの方々のご協力と併せて楽しいひと時となりました。ご協力をありがとうございました。また、来年は20周年記念式典を計画しています。ぜひ、STの力を結集したいと考えますので、さらなるご協力をお願いいたします。
- ・小児領域「ことばの相談会」が11月30日甲府市立善誘館小学校で行なわれました。今年は9名の相談者で、STは成人領域からの参加もあり18名で担当したため、午前中で終了することができました。ご協力をありがとうございました。

学術局 <局長> 中村 晴江 (甲府城南病院)

昨年は、学術局主催の講演会・研修会に多くの会員皆様のご参加をいただきありがとうございました。今後、開催予定の講演会・研修会は下記の通りです。皆様の参加をお待ちしています。

<学術部>

第3回 学術講演会 ※活動支援補助金対象講演会

日時：平成27年2月5日(木) 18:30～ 場所：大木記念ホール

テーマ：「発達障害者の支援の現状と課題～STに期待すること～」

講師：玉井 邦夫先生(大正大学 人間学部臨床心理学科 教授)

第4回 学術講演会

日時：平成27年3月19日（木） 18：30～（予定）

場所：大木記念ホール

テーマ：「摂食嚥下障害に対する訓練の実際」（仮）

講師：清水 充子先生（埼玉県総合リハビリテーションセンター）

<研修部>

①症例検討会

第6回症例検討会 平成27年2月19日（木）18：30～

場所：甲府東公民館

内容：今年度各全国学会での県士会会員の発表報告

②小児領域勉強会

奇数月第2土曜日に甲府共立診療所で開催を予定しています。

<教育部>

第6回新卒者研修会（平成27年1月14日開催）をもって今年度の新卒者研修会を終了しました。

広報局 <<局長>> 武井 徳子 （甲州リハビリテーション病院）

<会報編集部>

・第30号 平成26年11月発行、第31号 平成27年2月発行予定

<HP 管理部>

- ・第1回山梨県リハビリテーション専門職同学術大会の事前申し込みでの御活用誠にありがとうございました。
- ・イベント情報を今後も有効に活用頂ければと考えます。また、会報WEB版 第30号が掲載されました。
- ・会報WEB版 第30号が掲載されました。ホームページ上でも是非閲覧下さい。
- ・地域支援事業等推進協議会において理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3職種の活動をアピールするリーフレットが作成されました。ホームページ上からダウンロードして御活用下さい。

<広報部>

- ・広報グッズの『パンフレット』や『ボールペン』、『のぼり』、『パネル』は貸出可能ですので、啓発活動にご活用下さい。貸出を希望される方は広報部部長赤池（山梨大学）までご連絡下さい。

こどものことばの相談会 参加報告

健康科学大学リハビリテーションクリニック 大和 さわか

11月30日に甲府市立善誘館小学校のこことばの教室をお借りして、今回で4回目となる『こどもの「ことば」の相談会』を開催しました。今回は、日ごろ小児領域に関わっていない先生方にも手伝っていただき、より広い視点でお子さんや親御さんと関わることができました。

9名のお子さんの相談をお受けし、一人のお子さんに3～4名のスタッフで対応させていただきました。他の先生たちのお子さんや親御さんへの関わり方を直接学ぶことができ、大変貴重な会となりました。相談内容は、発達、構音、吃音、摂食・嚥下障害など様々ありましたが、全てのお子さんたちの今後のフォロー体制を整えることができました。

言語聴覚士が小児領域の分野でどのような働きができるのかという理解は、身近な小児神経科医にも十分に伝わっていない現状があります。今後も啓発方法を模索しながら、自分たちのスキルアップにも努めていきたいと思えます。また、より多くの先生方に小児領域にも関心を持っていただければ幸いです。



福島復興支援



湯村温泉病院 赤池 三紀子

今年の福島復興支援事業は、福島県言語聴覚士会からの要請にお応えし、言語聴覚士として7名が「福島県失語症者のつどい」とそのあとの懇親会に参加・協力いたしました。7時出発、25時帰着という弾丸スケジュールでしたが、昨年同様、心に深く刻まれた旅でした。震災と原発と障害と、福島の当事者・ご家族を取り巻く状況は遠く山梨からは想像以上のものでしたが、皆さまが交流することで明日につながるパワーを感じました。今回の参加者の感想を讀んでいただき、どうぞそのパワーを想像してください。また、来年度も復興支援事業は継続する予定です。今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

「福島を、そして福島の皆様をいつまでも忘れない！！」



国立機構甲府病院 小池 京子

昨年に引き続き今年も県士会の事業の1つとして福島県への復興支援ができたこと、また継続的に支援できる環境にあることを会員として大変嬉しく思っています。福島県は県の面積が全国3位であり広いため、失語症友の会は地域によって分かれています。会によっては積み立てをし、つどいに1泊旅行として参加され、楽しみにしている様子が伝わってきました。高校生による踊りの公演を楽しんだり、テーブルトークで一息懸命にお話をされたりと、会場が一体感で包まれていくのを感じることができました。言語聴覚士としてコミュニケーションの場を確保するお手伝いは必要な役割の1つだと改めて感じました。今回は被災の大きかった地域には行けませんでした。いわき市内の公園でも放射能の除染作業のために立ち入りが禁止されているなどまだまだ安心して住むことができない現状を目の当たりにし、今後も何かの形で支援をしていきたいと強く思いました。



春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 佐々木 蘭子

まず、多くの参加者がいたこと、参加者のコミュニケーション意欲の高さに驚かされました。コミュニケーションに障害を抱えた人が笑顔で、楽しそうにお話ししている姿に「誰が障害者なのだろう？」と思いました。発語失行や喚語困難があっても、音読や書字、描画などあらゆる手段を使いお話ししてくれる姿に、生活で使えるコミュニケーション手段が大切なのだと思知らされました。また、山梨の患者会をはじめ全国の患者会が縮小したり休会したりしている中、福島のように活動していくためにはどのように働きかけていくべきなのか、考える必要性を感じました。

当たり前の生活の中、新築の家と隣り合わせのように仮設住宅があったり、除染作業がされていたり…世の中の復興支援とは？まだまだ必要なことはたくさんあるのではないかと複雑な気持ちになりました。でも多くの笑顔に出逢え、同じ時間を過ごせたこと、多くのことを考えるきっかけを与えてくれた大切な経験だったと思います。このような機会を与えてくださった方々に心より感謝申し上げます。



私にとって、つどいへの参加は初めてでした。まず 1 番の印象に残っていることは、参加者の笑顔でした。皆さん、初対面同士でも書字や描画を利用したりしてコミュニケーションをとったりしていました。それぞれの方が、歌を披露したり、自分のことを楽しそうに伝えている姿に元気をいただきました。

今回の参加でこのような会の重要さを肌で感じることができました。昨年福島に行かせていただいてから 1 年。まだ福島には、仮設住宅や除染作業の光景がありました。参加者の中には、浪江町からいわきへ避難のため移ってきた方もおられました。改めて、自分は福島のために何ができたのだろうかと振り返るきっかけとなりました。今回のつどいで出会った福島の方々の暖かさに触れ、私も福島のために何ができるのかを再考できたらと思います。

今回初めて支援ツアーに参加することができ、福島県全体の結束力の強さを感じて震災を乗り越えようという県民の皆様のを目の当たりにしました。報道などでいろいろ見ていたつもりではいましたが、身近に放射能がある日常を実際に見て、私の中で被災地が「想像」ではなく「現実」に変わりました。福島の皆様の気持ちに触れ、何かできることをしたいと強く思うようになったことも私の中での変化だと思えます。現地に行かない支援もありますが、一度は「実際に行って自分の目で見てみる」ことの大切さも今回感じました。また、言語聴覚士としても支援できることがいろいろあることを知りました。どんな形であれ、何かの形で継続していくことが、私たちのできる一つの支援だということを再認識しました。このような機会を頂き大変感謝しています。

先ずは、福島復興支援に 2 度も参加できましたことに感謝申し上げます。

今回は、失語症者のつどい、懇親会を通じて失語症者とそのご家族の皆様と交流をもたせていただきましたが、行事の盛り上がりには驚きました。当事者主体の行事で賑やかな会が可能だったのは、言語聴覚士の雰囲気作りがあったからだと感じました。言語聴覚士として会話そのものを援助するだけでなく、コミュニケーションが取りやすい場を作るのも大事な援助の 1 つだと勉強になりました。つどいに参加された当事者のご家族から「そっちの人たちは忘れていないでしょうか？」の一言をかけられた時は、正直言葉がでませんでした。今回の復興支援を通じて、少しでも多くの被災地の方に、決して忘れていないという思いを伝えられたらと感じました。また、そのためにも今後も復興支援を継続していく必要があると思いました。

今回は、福島復興支援に参加させて頂き本当にありがとうございました。言語聴覚士としてまた、自分としても大きな財産になりました。

言語聴覚士として参加して良かった事は、失語症友の会に参加できたことです。私は普段病院で働いているので友の会での光景は新鮮でまた自分自身心踊りました。当事者の方々の生き生きとした姿、会話や合唱を見てこんなにも楽しい会なのだと感じました。退院していく患者様には楽しい会があると勧め、今後私も積極的に参加していきたいと感じました。



個人として参加して良かった事は、復興支援に参加した皆様と 1 日行動をともに出来たことです。個性が強い方が多く、出発から終わりまでの道中、笑う事が出来ました。言語聴覚士としての話、病院話、またプライベートの話など沢山聞かせていただいて勉強になりました。参加した皆様誰一人欠けても成り立たなかった支援ツアーだと思えます。最後にこの復興支援を企画また協力していただいた先生方に感謝申し上げます。

編集後記

昨年は、一般社団法人山梨県言語聴覚士会の設立や、初めてとなる第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会が開催され、大会のメインテーマのように大きな「飛躍」の年となりました。

今年の干支は「未(ひつじ)」です。由来は、「未」は字義が「味(あじ)」であり、草木の果実がいよいよ熟し、丁度滋養溢れた状態になる事を指しており、後に羊の字が当てられました。羊も古来より人間と馴染み深い動物であり、同じ行動を取って大勢で穏やかに暮らす、めでたい善良な動物とされています。

法人化され新たな前進を始めた山梨県言語聴覚士会が、本年は全会員で力溢れる大きな群れを成し、さらなる成長を遂げる一年となりますように。

一般社団法人 山梨県言語聴覚士会ニュース

- <発行所> 一般社団法人 山梨県言語聴覚士会
<発行人> 内 山 量 史
<編 集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 広報局会報編集部

石 和 温 泉 病 院	坂 井 隆 一
石 和 共 立 病 院	鈴 木 千 裕
一 宮 温 泉 病 院	杉 山 達 也・倉 島 雪 乃
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院	鈴 木 晶 也
甲州リハビリテーション病院	武 井 徳 子・堀 込 直 実
甲 府 城 南 病 院	廣 瀬 由 紀・平 田 暢 子
白 根 徳 州 会 病 院	植 田 菜 月
山梨リハビリテーション病院	中 根 千 晶
湯 村 温 泉 病 院	千 田 亜 也 子

- <事務局>春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科内
〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府 436
TEL0553(26)4126 FAX0553(26)4366

- <発行日>2015年2月1日 第31刊